

「全人類の母。」 創世記3章20節

I 人

殆どの日本人が「人は猿から生まれた」と信じながら、祖先である猿を見下しています。それが「進化論」です。強者による弱者支配です。政治家や大企業や大組織に依存する体質ですが、自分は劣後者という告白であり、情けない対応です。

「人(アダム)」は、神の創造された世界を治めるために創造されたものです。神の代官なのに、悪魔の誘惑に乗り、神との契約を破ります。全く根拠のない嘘に騙されるのです。

悪魔は、現代社会にも働き続けています。オレオレ詐欺、投資詐欺、老人ホームや美容エステ、進学塾、結婚相談所などの前金詐欺など。労使関係、下請関係、営業関係でも、政府や行政の説明も鵜呑みにはできません。

根本は、神の物を自分の物であるとする誤解にあります。この瞬間から罪人です。現代社会の諸問題の根源はここにあります。

II 女

「人(アダム)」は、一人だけで創造されたものではありません。「神は人(アダム)を神の象に創造した。神の象に人(アダム)を創造し、男(ザカル)と女(ネケバー)を創造した」のです。最初から男(ザカル)と女(ネケバー)との二人だったのです。それに対して、「神が男(イシユ)の肋骨から女(イシヤ)を造った」という記事があり、矛盾するようですが、この話の基本は「相応しい助け手」にあります。ゆえに、「男(イシユ)は女(イシヤ)と結び合い、一体となる」のであり、「男と女」というより「夫(イシユ)と妻(イシヤ)」です。「男(ザカル)と女(ネケバー)」とは別だとわかります。

聖書は、この「男と女の関係」を「神と人との契約」に展開します。神を夫とし、人を妻とする契約です。婚姻は「両性の合意のみに基づいて成立」(日本国憲法)する契約です。神と私たちとの関係は、生まれ、身分、居住地、職業、財産、献金の多寡などによるのでなく、意思と意思の合致によるのです。神の言葉に対応する信仰によって、神との婚姻関係が成立するので「婚姻」と「結婚」とも混同しないように注意が必要です。「結婚」とは「婚姻の成立」のことです。結婚式の誓約で「終生変わらぬ愛」を誓ったと同様、神との婚姻関係においても終生変わらぬ愛に信仰が求められます。

一度信じて救われたからもう大丈夫、そんなものではないのです。終生、信仰を貫き通すことが求められているのです。

III 母

アダムは妻に「エバ」という名前を付けます。「生けるものの母」という意味です。「母」とは、第一に、血族の直系尊属一親等の女性(実母)です。子を産み、育み、教え、世に輩出する存在です。この世に存在する人はすべて母から生まれた者です。

第二に、養子縁組による「養母」です。生みの親ではなくとも、育ての親として、大切な役割を果たしています。

第三に、姻族の直系尊属一親等の、いわゆる「義母」です。

この「義」という字の意味は複雑です。(1)義父、義母、義兄弟、義足、義眼、義歯など、「偽」の意味。(2)赤穂義士、義民宗吾、災害支援の義捐金など、「自己犠牲」の意味。(3)正義、大義、忠義、仁義などは、「道」の意味。(4)意義、語義、教義、定義などは、「意味」の意味。(5)基督教界では、義人、義とする、基督の義など、「正しい」という意味で使っています。

「母」、身分法上の関係ですが、転じて、生まれ育った国を「母国」、生まれ習得してきた言葉・言語を「母語」、勉強して卒業した学校を「母校」、信仰を育んだ教会を「母教会」と表現します。この「母」は、肉の母に準えた社会的な事象の説明とも言えますが、そうとは限りません。母国に育てられたという感覚を持つ者も、母語に育てられたとは言わないでしよう。むしろ、一定の関わりがある者間の共通認識、アイデンティティを表現するものでしょう。

さて、この「生けるもの」は、生物や動物ではありません。「神ヤハウエが鼻に生命の息を吹き込むと、人は生けるものとなった」と書かれています。つまり、「人」とは「神から生命の息を受けたもの」ということです。人は、動物の一種なのではなく、神から生命の息を受けたものということ。この「息」というヘブライ語は、「風」とも「霊」とも訳される言葉ですが、「神の霊」である「生命の霊」と理解するのが適正でしょう。神の霊を受けて生けるものとなるのであり、神の霊を受けていないものは生けるものではないということです。

エバが「全人類の母」ということは、「猿は人類の祖先ではない」ということです。猿が母だったら、何の夢もありません。将来を想像する「夢」は、人にだけ見ることができるとは、神の息ゆえです。猿の子孫なら、強者生存の法則が生まれます。他人を騙す力があり、他人の物を強奪できる者が勝つようになります。社会の掟や国家の法律も、強者の弱者支配の道具になるでしょう。

終末に向かう今の世、正義を求めるべき宗教者でも、論理を尽くして正義を貫くという姿勢を放棄して、手っ取り早く、政治家に擦り寄り、密約を結び、利権を得ようとする傾向が見られます。

アイデンティティの相違です。「エバが人類の母」というアイデンティティは、神の言葉を信じる者であるという表現であり、神の言葉に属する者、神に属する者という告白でもあるからです。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

【新改訳 2017】

創 3:16 女にはこう言われた。「わたしは、あなたの苦しみとうめきを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む。また、あなたは夫を恋い慕うが、彼はあなたを支配することになる。」

3:17 また、人に言われた。「あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。

3:18 大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。

3:19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」

3:20 人は妻の名をエバと呼んだ。彼女が、生きるものすべての母だからであった。

3:21 神である【主】は、アダムとその妻のために、皮の衣を作って彼らに着せられた。

創世記 3 章 20 節（櫻井園郎訳）

「人は、彼の妻をエバと名付けた。

彼女は生き物のすべての母となるゆえにである。」

【NKJV】

Gen 3:16 To the woman He said: "I will greatly multiply your sorrow and your conception; In pain you shall bring forth children; Your desire shall be for your husband, And he shall rule over you."

3:17 Then to Adam He said, "Because you have heeded the voice of your wife, and have eaten from the tree of which I commanded you, saying, 'You shall not eat of it': "Cursed is the ground for your sake; In toil you shall eat of it All the days of your life.

3:18 Both thorns and thistles it shall bring forth for you, And you shall eat the herb of the field.

3:19 In the sweat of your face you shall eat bread Till you return to the ground, For out of it you were taken; For dust you are, And to dust you shall return."

3:20 And Adam called his wife's name Eve, because she was the mother of all living.

3:21 Also for Adam and his wife the Lord God made tunics of skin, and clothed them.